



2026年9月16日掲載

AI脅威論で心配し過ぎないように

人工知能(AI)の安全性や社会への影響を巡る議論が強まり、AIの成長を限定する恐れから、AI・半導体関連株を中心に株価が調整しています。しかし、この議論は、AIや半導体の長期成長シナリオを大きく変えるものではないでしょう。

市場の反応は、AI需要が消えたというよりも、「AIの発展スピードは想定通りなのか」という疑問が広がった結果でしょう。しかし、AI向け半導体の需給は依然としてひっ迫しています。生成AIやAIエージェントへの需要も続いており、データセンター投資の中止を懸念する状況ではありません。むしろAIの安全性や管理体制を強化するとなれば、そのための計算資源やソフトウェア、人材への投資が追加で必要になる可能性があります。

AI・半導体投資の3つのリスクを以前から指摘してきました。関連業界の競争激化、データセンターや電力などの供給制約、そして、巨額投資に伴う負債です。市場はこのところ、中国との競争激化を中心に懸念してきましたが、「AIをどう管理するか」という論点は、長期成長のための条件づくりのスタートと見ることができます。

AIが人間社会とどう共存するかを考える必要が明確になったことは、青天井の成長シナリオとは言えないかもしれませんが、この議論が長期的な需要の方向性そのものを悪化させるとは考えていません。

悲観しすぎず、成長の持続性に布石を打つ局面と受け止めるべきだと思います。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》